2000年第7代防衛大学校校長。06年退官し、一般財団法人平和・安全保障研究所理事長。2008年瑞宝重光章受章。にしはら・まさし、1937年大阪府生まれ。62年京都大学法学部卒。72年ミシガン大学大学院政治学研究科修了、77年防衛大学校教授、 いという状況をみると、 る。今回、 響しているような気がします。 そう考えると、

(4)

•安全保障研究所理事長(元防大校長)

25」と言われてますけど、 を牛耳ったら、

ど、いろんなものを自前で全部や技術を詐取、それから経済改造な ら副大臣がおっしゃったように、 まかしがあって、やはり根本では 中国が言う自由貿易はちょっとご かと思うんですね。だけど本当は 史的に非常に新しい制度ではない 中国政府が動かしている。それか 由貿易をやると言うこと自体、歴 と言ってますけど、独裁体制が自 中国は一方で「自由貿易」

を作る前提の大きな流れの中で影 いて、それが今回の大綱・中期防 ていることが国際情勢に影響して メリカの価値観が以前と違ってき いは経費面でもっと韓国が負担し いまだに折り合っていな 中国とアメリカ やはりア っている。 国ができてからて

て知財を盗用することによって 的優位性を中国が脅かそうとして を仕掛けました。アメリカの技術 の関係は極めて重要になって は技術を強制的に移転させ、そし いることが背景にあります。中国 製造強国」というのを目指すん 米国は中国に貿易戦争

とか民主主義とかと違う形の判断 るというのは私もそう思います。 い。米中がこれから大きな鍵にな 基準ができる可能性も否定できな と。仮に中国が軍事と技術と経済 ベルのハイテク国家になるんだ」 に「2049年には世界トップレ メイド・イン・チャイナ20 もう我々の価値観 さら

2025」、そして中華人民共和 ように「メイド・イン・チャイナ いですね。それで今おっしゃった恵を使ってやっているところが多 るというのではなくて、 い越すんだという意志を持ってや 49年、その時にはアメリカを追 00年目が20 、他人の知

50年代にソ連(現ロシア)が人 てのことだと思うんですね。 これはアメリカにとっては初め

姿を消しているようですね。

類初の人工衛星「スプー トニク に、佐藤

呼ばれた親中派が力を持っていまハガー(パンダに抱きつく)」と 校に導入しなくてはいけないとか はいけないとか、数学をもっと学 っては大変ショックだったらしく うです。アメリカでは、10年くら 第二のそういうショックがあるよ あったようですが、今はある面で て、アメリカの教育を変えなくて い前まで英語で言うと「パンダ・ したけど、今は親中派もほとんど

を打ち上げたとき、アメリカにと

はかなり計画経済的なところもあに、自由貿易と言いながら、中国

自由貿易と言いながら、中国佐藤 理事長が言われたよう



厳しいことは言ってなかった。た全保障戦略」を見ると、そんなに ことは言ってましたけど。だけど を見ますと、 昨年暮れのペンス副大統領の演説 に発表されたアメリカの「国家安 た点ですけどね、2017年12月 しかに米中の競争は厳しいという かなり違いますね。

る。

この前のファー

ウェイのCF

和党も民主党も一枚岩になってい

対中国ではアメリカが共

党の中にも強くあると思うんです

いる。騙されたという意識が民主

〇の逮捕なんかも象徴的ですよ

アメリカの要請を受けて、カ

がします。

識しながら書かれているような気 衛計画の大綱」もかなり中国を意 ナダが拘束する。それで今回の「防

も応用できますから。アメリカも るとか。これらは全て軍事技術に 成功して、 ンを船上での実験に成功したと やってますけど、中国もレー 位衛星」はもう30数個上がってい を追い越すのではないかとか、「測 す。自動運転のレベルはアメリカ そうというような面も見られま れば、国策としてある分野を伸ば (電磁砲の) レ ルガンの開発を

> 方も随分違ってきましたしね。 すよね。日本の新防衛大綱の書き わったと思います。日本もそうで 気持ちが強く、1年間でだいぶ変 か今抑えなくてはいけないという 緊張感と言いますか、中国を何と 厳しさっていうか、切羽詰まった

きるとか。 ドで姿勢も方向も変えることがで 応できなくなるようなハイスピー また極超音速滑空弾も実験に 弾道ミサイル防衛も対

副大統領が対中政策を発表し、さ

ハドソン研究所でペンス

らにパプアニュー

ギニアのAPE

という目標、建国100年に合わ でに世界トップレベルの軍にする 代化を成し遂げて、2049年ま 技術者が何十万、何百万単位でい等に留学して、中国に帰ってきた って言われるのですが、アメリカ 出てくるのは、よく「ウミガメ」 こうした新しい技術がどんどん 軍の方も2035年までに近

きだと。

国防授権法を民主党も賛

る安全保障政策はもっと強化すべ い見方を持っていて、中国に対す 主党の議員も中国に対しては厳し た。この前の国防授権法もそうで

実は共和党だけでなく民

い表現で懸念を示していまし

での演説もかなり中国に対して厳

(アジア太平洋経済協力会議)

成したというのは、

まさにそこの

分野でオバマ大統領が騙されたと

いう部分もあると思うんですね。

南シナ海で岩礁を埋め立てた人

中国は「あれは軍事基地

をいかに作るかが基本政策だった 念事項であり、今までは「日米の せて着実にやっている。 総和が中国を上回る」という態勢 これは日本にとっては深刻な懸

タックとかでそういうのは盗まな

いうのは盗まない、

サイバ

がオバマ大統領に「知財とかそう

しまった。

あとは習近平国家主席 実際には反故にされて

したけど、

化しない」とオバマ大統領に約束

は盗まれて、その証拠も出てきて い」と言ったにも関わらず、実際

上回るというエリアあるいは分野かの時点で、中国が日米の総和を が出てくる可能性もゼロじゃな んですけども、それが本当にいつ 今、副大臣がおっしゃっ

思います。しかし、それぞれなを進めていく。これは大変い ものを複合的に考えながら防衛力 防衛力」、中身を聞くと宇宙とか で新しい言葉として「多次元統合 ーとか電磁波とかいろんな もう一つ、今度の新大綱 それぞれの分 いと

野で日本は例えば中国と比べたら

いる。 規模に金をかけて防衛力を作って という懸念もありますね。技術は いいかもしれないけど、中国は大 たいぶ劣っているんじゃないかな

防衛省のサイバー、宇宙、

日本にとって脅威は中国

保障研究所理事長(元防大校長)に語り合っていただいた。

(1月23日に都内で対談、司会は朝雲新聞社取締役・水谷秀樹)

現状分析と今後のあるべき方向性について佐藤正久外務副大臣(元1等陸佐)と西原正平和・安全 ような状況を踏まえ、昨年末に策定された「防衛計画の大綱」「中期防衛力整備計画」を中心に、 日本を取り巻く東アジアの安全保障環境は、変化のスピードが速く、厳しさを増している。その

ろから始めたいと思います。 ぞれのお考えをお話し頂くとこ く安全保障環境について、それ 最初に今の日本を取り巻 であるというだけではなくて、「ア

西原

「米国に代わる」可能性も

ど、日本にとってはそれほど脅威鮮の問題も難しい問題なんですけ 厳しくなってきたと思います。 とロシアだと思うんですね。北朝 段階に入っているということなの さと不確実性を増している」と言 になってないような気がする。 っています。私は、日本にとって しい「防衛大綱」も今までにない 一番の脅威となるのは中国、それ 「格段に速いスピードで厳し

Ē

環境は今、去年ぐらいから極端に

西原平和・安保研理事長

にする」と。アメリカへの優位性 050年までに中国を主導的大国 外交の面でも活動を拡張し、 る。これは我々にとっても非常に 代表大会で習近平国家主席は「2 ちの存在を大きくしています。2 ということに彼らは関心を持って んな面でオールラウンドに自分た 中国が軍事的、経済的、そして 共産党第19回全国 単に中国が脅威

うなるか、我々にとって一番大きしています。この米中の関係がど 性まで出てきてるわけですから。 ランプ政権が中国に対抗しようと な問題ではないでしょうか。 アメリカも大変な意欲を示してト メリカに代わる存在」になる可能

以上にアメリカの価値観の変化が 速く、激しい時代になってきたと 正面も、情勢の変化のスピードがでなく、ヨーロッパ正面も、中東 事長がおっしゃるように日本だけ あるのかなと思います。 思います。その要因の一つに、 国の経済発展もありますが、それ 佐藤外務副大臣 まさに西原理

を掲げたトランプ大統領が勝利し いる。オバマ大統領が「アメリカ を汲むような方々が結構当選して 選挙でもそのサンダース氏の流れ 者を選ぶときに、社会主義的な主 は世界の警察官をやめる」と言い 持を集めていたり、この前の中間 張をするサンダース氏が43%の支 選挙で「アメリカ・ファースト」 たこと。同時に民主党の方の候補 典型的なのが、この前の大統領 ても合同訓練の中止・縮小、ある

安全保障環境が流動的になると思 と考えざるを得ない。結果として の安全保障をリー 自体が内向きになっていて、世界 い思いがアメリカ国民にもリ の方にも以前と違ってきている -ドするという強

費の7割を負担しなくてはいけな があるのに、なぜNATOの国防 ランプ大統領は「ヨーロッパに対 の国防費の分担金問題についてト と、NATO(北大西洋条約機構) いんだ」と言ってます。 してアメリカは17兆円の貿易赤字

米軍を置いておくか。やはりそれ た。しかし、今、在韓米軍についはアメリカの国益だと考えてい あった。アジア正面においてもな がアメリカの国益だという観点が るかというと、やはり中東の安定 中東においてなぜあんなに犠牲を 観点でやっていたと思うのです。 アメリカの国益につながるという 正面、アフリカ正面が安定すれば、 担をしてもロシア正面、 払って戦費をかけても派遣してい 大きな負担をしながら韓国に

昔のアメリカは、そのくらい負 例えばヨーロッパ正面で言う バルカン

話し頂ければと思います。べき点と今後の課題についてお防」の特徴につきまして評価す 今回の「大綱」と「中期

番重要なのは中国ですね。

徴だと思います。それから実際に たと、脅威に対する認識が変わっ か、日本の政府の考え方が変わっ い。珍しいってことはこの5年間政権で二つを作るというのは珍し たことを示しているのが一つの特 でかなり事情が変わったという ったのは2回目ですよね。 安倍政権が防衛大綱を作 一つの

自分の国は自分で守る

佐藤 島嶼への端末輸送力は必須

ルス戦闘機を導入するとか、そう防衛力の増強の中でも空母やステ 思うんです。重要なのは集団的自 いいかなと思ったんですけど。少し踏み込んだ言い方があっても てことで、これは防衛大綱では述 衛権をどこまで日本が認めるかっ べていなかったですね。私はもう いう面で日本は変わりつつあると

分で守るということ、日本の防衛 力を強化すると同時に、日米同盟 佐藤 厳しい安全保障環境を考

> かった部分が、今回の大綱では出るけど予算等の関係で触れてこなんあって、これまで必要性は分か です。今までの延長線上ではなく、くかということに尽きると思うんをいかに実効性あるものにしてい 力を作る。今まで大事だと言われ国民を守るために真に必要な防衛 ていた分野でも欠落機能はたくさ てきたような気がします。

備力を整備してきましたが、太平です。地政学から言うと、北正面がロシア、西北正面が北朝鮮、南西正面が中国というイメージで防西上面が中国というイメージで防力を整備してきましたが、太平洋側なん **の空母化」一つをとっても、我々の空母化」一つをとっても、「いずも」** の活動が増えていて、 と、どんどん沖縄を抜け太平洋で 洋側はあまり考えてこなかった。衛力を整備してきましたが、太平 ところが中国の最近の動きをみる も中国 我々

揚陸船等の端末地の輸送は必須な

んです。今回、これまで必要だった

本の安保カギ

握る米古

今はもっとアメリカ

戒をしないといけない。 するようなSTOVL機を乗せ、 ずも」を改修して離発着を可能と っと南です。その辺りの警戒監視 ダーが届くような範囲ではないず を抜けて紀伊半島の沖の方まで来 た。紀伊半島の沖と言ってもレ の爆撃機が沖縄本島と宮古島の間 AWACSと組み合わせながら警 そうなれば、

縄本島とか宮古島、石垣島の港にの輸送艦「おおすみ」タイプは、沖 保護するのかということになりま って送るのか、住民をどうやって は展開するのか、補給品をどうや ゃあ実際どうやってそこに自衛隊 には船が大きすぎて入れない。じ までなかったんです。海上自衛隊 ります。しかし、端末輸送能力は今 を考えたときに、島がいっぱいあ あるいは、南西諸島の防衛警備 れたとしても、それ以外の島々 防衛を考えたときに、小型の

> 思うんですけど、防衛大綱では、日本側は追いつくのが難しいと 向に進んでもらいたいと思いま 述べていますね。ぜひそちらの方 日本の技術の優位性ということを

数が全然違います。ゲームチェン電磁波に比べ、中国は予算と人の ジャー技術にも、人と予算をかけ まったことは間違いない。 要性について、意識は前よりも強 基盤とか技術革新に力を入れる必 います。ただ、今まで以上に産業 ることが大事。今後の課題だと思

評価すべき点だと思います。 たので、そこは一つの特徴であり、 部への輸送機能強化)にタッチし が対応してこなかった部分(島嶼